

Reflection

リフレクションにより、自分自身が提供した看護の意味や価値に気づき、管理者としてマネジメントやリーダーシップを発揮していくためのヒントを得る機会とする。

また、地域において「京あんしんネット」を活用した多職種連携体制の構築を推進していくための機会とする。



✿ 講師：
関東学院大学看護学部/大学院看護学研究科

教授 青木由美恵 氏

日時：令和4年8月27日(土) 13:30~16:30

場所：ハイブリッド開催

京都府民総合交流プラザ 京都テルサ 東館中会議室 対面 + ZOOM 配信

対象：京都府訪問看護ステーション協議会会員ステーションに従事する、協議会版クリニカルリーダーレベルVに該当する看護師

応募者数：43人 (内訳) 対面 12人、ZOOM受講 31人

受講者数：38人 (内訳) 対面 12人、ZOOM受講 26人

スケジュール：

時間	区分	内容
13:15~	受付	
13:25~13:30	オリエンテーション	
13:30~14:40	講義	リフレクションの概要
14:40~15:05	質疑応答	
15:05~15:20	休憩	ZOOM参加者は退出
15:20~16:10	演習	リフレクションの実際 グループセッション
16:10~16:20	総括	
16:20~16:30		「京あんしんネット」を活用した多職種連携の一例(情報提供) アンケート記載

司会

一般社団法人京都府訪問看護ステーション協議会 研修委員

株式会社アソシア 訪問看護ステーションアソシア 管理者 谷口 幸子

開講ごあいさつ

一般社団法人京都府訪問看護ステーション協議会 副会長

公益社団法人信和会 訪問看護ステーションたんぼぼ 管理者 物部 理奈

本日は、京都府訪問看護ステーション協議会、令和4年度基金事業の管理者研修にご参加頂きありがとうございます。

京都府訪問看護ステーション協議会は、看護専門職として必要な実践能力の向上を図るために、レベル別研修に取り組んでいます。

本日の管理者研修は昨年度の8月に開催予定をしておりましたが、コロナ渦で緊急事態宣言が発令され、直前になって中止となりました。今年度も第7波の最中であり、開催できるかヒヤヒヤしていましたが、感染対策を徹底した上で、やっと開催できたことを感謝しております。

「青木先生！ やっとお会いできて嬉しいです！ 講演と演習楽しみにしています」

本日はどうぞ宜しくお願いします。



まず、「リフレクションとは」という所で橋や氷山、たまねぎなど色々なイメージモデルを通して具体的にイメージできるようにご説明頂きました。その中でとても印象的だったのは行動に反映されたその時の行為者の感情も背景として大切に扱う、という点でした。決して誰かを責めたり原因を追究するような反省会にはしない、そこも含めてリフレクションとは「体験から得た自己の気づきを丁寧に振り返る」ことであり、「経験を意味づけるプロセス」になるという事を学びました。



更に看護にどのように寄与するのか、という所で対利用者についてのみならず、自身に必要な知識の範囲を焦点化することで効率的な学習への気づきが得られモチベーションの向上につながる事やチーム全体のリフレクションで「新人が定着する職場づくり」にも繋がられることを教えて頂きました。



次に実際にリフレクションを行うにあたってのカギや必要なスキルについてご講義頂きました。

その中で必要なスキルとして「クリティカルな分析」がありました。それについては「批判的に分析する」とかではなく無意識に「当たり前」として行ったり受け入れている事に対してのクリティカルな分析が必要であるとの事でした。

実際のリフレクションの流れをリフレクションサイクルを使い身近な例を通して説明して下さい、リフレクションがそれだけで単独終了してしまうのではなく、次の行為・学習に繋がりを更にそれをリフレクションして更に次の段階へと繋げる、という継続の中で個人・組織の成長を期することができるという事でした。



対面講義の参加者でリフレクションの演習を実際に行いました。

ほぼ初対面のグループで自己紹介から始まり他己紹介、それぞれの体験をリフレクションの体験シートに沿って話しをしてグループのメンバーに聞いてもらうという流れで先生も全グループに順番に参加して下さり、とても暖かいリアクションで「聞く側」の雰囲気を読み下さったり、「話す人」の感情を引き出して下さりすべてのグループから楽しい笑い声や笑顔があふれていました。



閉講ごあいさつ

一般社団法人京都府訪問看護ステーション協議会 副会長
医療法人社団育生会
訪問看護ステーションふかくさ 管理者 小松 匡也



青木先生、本日は貴重なご講演、ありがとうございました。

新型コロナウイルス第7波の真っ只中にもかかわらず、京都にまで来ていただき大変感謝しております。新型コロナ感染拡大防止のため2年連続で本研修が中止となり、今年度は対面とZOOMでのハイブリッド開催となり、感染拡大の影響で対面の参加者が少ない中でしたが、顔の見える関係が築きにくいこのご時世でグループワークを通し、日ごろの悩みや情報交換など共有できるよい機会になったのではないかと思います。

日々、多忙な皆さんは利用者やスタッフとの関わりを持つ中で、関わりを振り返る余裕や時間もなかなかないと思います。今回の研修でリフレクションを学び、ポジティブなことを評価したことでリフレッシュにもなったと思いますし、今後も業務に活かし、日ごろの状況を明確化し分析することで質の良い看護につなげることができると思います。

最後に青木先生、本日はお忙しい中本当にありがとうございました。

感想

一般社団法人
京都府訪問看護ステーション協議会
広報委員会



最後に「教育とはバケツに水を満たすようなことではない。火をつけて燃やしてやることである。」決して「他者が望むようになっていくこと」ではない、「成長の実感それは自己が喜びとなる」と教えて頂きました。

長い間看護師をしていると客観的にとらえた事象やデータからアセスメントするのは呼吸をするように得意になって自然にできるようになってきます。

今回実際の体験を通して自分がいかに自分や他者の感情を考慮せずアセスメントしているか、事実や結果を重視しているかが分かりそんな自分に気づいたことがリフレクションの効果なんだなあ、と実感しました。演習の雰囲気はとても楽しく一人10分の持ち時間を短く感じてしまう位でした。まずは家族で練習してみようかな、と思いました。

京都府訪問看護ステーション協議会広報委員



【広報委員会 委員】

優心訪問看護ステーション	増谷 祐子
同和園訪問看護ステーション	瓦葺 美和
洛和会訪問看護ステーション天王寺	浦本 博美